



## 琵琶や三味線と庭園の風景との ハーモニーを、日本人が忘れていたのは もったいないですね。

### プロフィール

1951年スイス生まれ。チューリヒ大学で音楽学を学び、1983年にショパンのワルツの研究で博士号を取得。またその頃から日本の芸能に興味を持ち、文部省留学生として来日。大阪大学で研究を続けながら琵琶の演奏を学ぶ。現在は大阪学院大学比較芸能論を担当しつつ、演奏活動を行っている。お問い合わせは、大阪学院大学国際学部まで。TEL: 06 - 6381 - 8434 FAX: 06 - 6382 - 4363 E-mail: guignard@utc.osaka-gu.ac.jp

ときから、よく琵琶湖に遊びに来ていたんですよ。湖西の駅で降りて琵琶湖の湖岸を2~3時間サイクリングするのは最高ですね。自分の家を持つなら琵琶湖のそばと決めていたんです。

**夫婦で琵琶湖を楽しんでおられるんですね。今後の目標や夢はありますか。**

私は研究者ですが、やはり演奏が好きですね。とくに尺八や能管、鼓など他の楽器の演奏者と一緒に音楽を作るのが好きですから、そういうリサイタルを続けていきたいですね。また、現代音楽もやりたいと思っています。すでに作曲家に作曲を依頼して、琵琶で弾く現代の曲を作曲してもらっているんですよ。

そして、海外に琵琶を紹介していくことが大事だと思いますね。私は外国人ですが、日本の伝統芸能を外国で紹介することにも興味を持っています。西洋という同じサイドにいる人が、東洋という違うサイドを紹介するというのが面白いと思います。

**最後に、滋賀県の人にメッセージをお願いします。**

琵琶湖を大事にしてほしいですね。すごく環境に対する努力はしていると思うのですが、もう少し必要ではないでしょうか。私が子どもの頃、スイスでは湖がすごく汚れていたのですが、高校生のとき、水をきれいにする運動が起こりました。今ではものすごくきれいになっていますよ。チューリヒの街中の川でも泳げるくらいです。本気で取り組みれば、それが可能なんです。

それから、びわ湖ホールも最高ですね。本当に海外の有名な一流の芸術家に来ていますし、運営も一流です。一步踏み込んで、一流の芸術家がびわ湖ホールに公演に来たとき、草の根の交流ができる仕組みなどがあるといいですね。ぜひそんなふうな国際交流の窓口を広げていってください。



### 日本に来られたきっかけは？

大学では西洋音楽を勉強していましたが、ちょうどその頃、1970年代で、若者の間にヨーロッパ世界とは違う体験を求める動きが出てきていました。そこで、私もヨーロッパ以外の文化を知りたいと、チューリヒ大学のセミナーで日本の音楽について学んだのです。それをきっかけに、専門的に日本の音楽について研究を始めました。初めて平家琵琶を聞いたときは、何がきれいで楽しいのか、全然わかりませんでした。「スイスとは距離も離れているし、700年前のものだから時間も離れている。すぐにわからないのは当然だ」と先生に言われ、琵琶の研究に挑戦しようと思いました。一番わからないところを研究すれば、視野が広がると思ったのです。そして、仕事をしながら日本語を勉強して、32歳のときに来日しました。

### 最初に日本に来られた時の印象は？

スイスとは生活がまったく違いました。一つは、住むスペースの狭さですね。下宿していた部屋は、広さが3畳ぐらいしかなくてね。「部屋になりますか、これだけで」という感じでしたよ。もうびっくりしました。同僚がみんな就職して自分の家や車を持っているというときにね。でも、下宿のおじさんはとてもいい人でした。

もう一つは、休日が少ないこと。ヨーロッパでは土日が休みで、今でも土曜日の4時になるとほとんどの店が閉まってしまいます。これは宗教の関係で、キリスト教の国では土曜・日曜は仕事をしないんですよ。この日は神様を礼拝する日ですね。ところが、日本では週休1日でした。30歳まで土日が休みというリズムに慣れていたので、何か落ち着かなかったですね。

### 琵琶の演奏技術はどのように習得していかれたのですか？

大阪大学で私が学んでいた先生が、筑前琵琶の山崎旭萃先生(人間国宝)を紹介してくれ

ました。最初は、実際に琵琶を見たこともないというのに、いきなりそんな有名な先生に師事するのは失礼だと思ったのですが、伝統芸能に携わっている人は、いろんな人が伝統芸能に興味を持つことをすごく喜ばれます。しかも私が外国人ということもあって、もし本人ががんばるといったら教えてあげますよとおっしゃってくださいました。それから20年間、今も毎週習っています。

### 伝統芸能というと、 師匠と弟子の関係をイメージしますが、

江戸時代に発達した芸能では、楽譜がなく、師匠のまねをして覚えるという形をとっていました。けれども、日本はすごい楽譜の歴史があるんですよ。例えば楽譜が印刷されたのは、ヨーロッパと同じで15世紀です。琵琶は中世からの伝統芸能ですから、曲の歌詞も決まっているし、楽譜もあります。私は先生に師事して実践しながら、日本の音楽を学問的に把握するように、研究をすすめています。楽器の実践をもとに、学問としての実を实らせたいですね。

### 琵琶の研究のほかに、定期的な リサイタルもされているんですね。

はい、年3回、私が作ったシリーズのリサイタルをしています。最近では他の所にもよく呼ばれますから、毎週末にどこかで演奏しているという感じです。三味線と競演したこともあります。庭で聴く音色は本当にすばらしかった。琵琶や三味線と庭園の風景とのハーモニーを、日本人が忘れていたのもったいないですね。

### 今は大津市にお住まいですが、 どこが気に入られたのですか？

やはり琵琶湖があるということですね。私もスイス育ちですし、妻はスイスで一番大きいボーデン湖のそばで育ちましたから、湖のそばに愛着があったんです。チューリヒに住んでいたときも、チューリヒ湖のすぐそばで暮らしていました。だから京都に住んでいた